

# 読書推進運動

公益社団法人  
読書推進運動協議会  
〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町1-32  
出版クラブビル6階  
TEL 03(5244)5270  
FAX 03(5244)5271  
発行人 佐々木 泰  
編集人 片岡 伸子  
定価 60円  
会員の購読料は  
会費の中に含まれる

No. 701

★「上野の森 親子ブックフェスタ」今年も開催へ(2頁)  
★「読書週間」ポスターイラスト募集(8頁)



## 子どもたちと楽しめる再話に 魅せられて

「子どもの読書週間」によせて

第41回野間読書推進賞受賞者  
昔ばなし大学再話研究会再話指導員

おがわのりこ  
小川範子

「君、グリム童話をやるならば、日本の昔ばなしもやってくれたまえ」と、日本民俗学と昔ばなし研究の開拓者である柳田國男先生から、こう声をかけていただいた小澤俊夫先生は、グリム童話と一緒に日本の昔ばなしの研究も始められた。そして、昔ばなし大学の受講生たちに、「わたしたちは伝承の途中にいるのです。決して終点にいません」と、受け継ぐことの大切さを教えてくださるのです。

昔ばなし大学とちぎ再話研究会グループ「かわらぶじ」では、栃木県立図書館で持出禁止になっている加藤嘉一編『下野茂木昔話集』と出会って、おもしろいおはなしがたくさんあるので、この本の中のおはなしを子どもたちに届けるために再話をしたいと小澤先生に相談したところ、「一冊の本をじっくりと見つめて再話することはよいことだよ。ただ、その場合、どのおはなしを再話するのか？ 最初に見極めてからやらなきゃだめだよ」とアドバイスをいただき、さっそく一話一話についてに検討を開始しました。

「これって、大人の囲炉裏端のおはなしだよね」「朝読の時間にこのおはなしを聞かされた生徒は、その日一日中つらいよね」と、次々と再話候補が減っていき、最終的に残ったのは、6話中36話でした。

いよいよ再話開始。耳で聞いただけで場面をはつきりと思いつかべることができたりするだろうか？ 昔話の文法から外れた再話になっていないだろうか？ 細心の注意を払いながら再話を進めていく。

いちばんの難関は、土地言葉やどの程度残すかということでした。子どものころは、あたり前のように使っていた土地言葉ですが、今の子どもたちは、(なに、それ?) っ感じるでしょう。

幸いにしてまったく通じないという土地言葉ではないので、そのまま入れてみることに。でも、おはなしによって

は、土地言葉の似あわないものもあり、最終的にはおはなしの柄に合わせて使うことにしました。

「昔って、こういうときには、〇〇って言ってたよね」「△△っていう言い方もしてたじゃない」と、子ども時代使っていた言葉も、体の中には、土地言葉がしつかりと残っていました。

最近、学校でのおはなし会の時間がどんどん削られていきます。短くてもとつぶりとおはなしに浸かって楽しめるようにという配慮もして、『子どもと楽しむ昔話集 ひとつぶの米』を上梓し、栃木県内のすべての図書館に寄贈することができました。

楽しいおはなしばかりで、しかも短いおはなしが多いので、学校の読み聞かせの時間で語ってあげられると、ボランティアの方々には喜ばれております。

これで、おはなしが子どもたちの許へ届けられると、再話者一同喜んでおります。

■「絵本ワールドinしずおか」

### 伊豆市立図書館を中心に開催 市内全域で関連イベントも!

子どもの読書推進会議が後援する絵本ワールド事業の2025年度最後の開催として「絵本ワールドinしずおか」が、2026年3月28日(土)、29日(日)の両日、静岡県伊豆市の「修善寺生きいきプラザ」を会場に行われた。ほぼ満開のソメイヨシノが並ぶ狩野川ぞい、伊豆市役所や市立修善寺図書館と隣接するロケーション。市立図書館を中心とした実行委員会で、伊豆エリアでの初めての絵本ワールドとのこと。

春本番の暖かさに誘われて多くの家族連れが訪れるなか、絵本ワールド恒例である絵本・児童書の販売のほか、盛りだくさんのコンテンツが実施された。作家のトークイベント・サイン会としては、はたこうしろうさんの「絵本で遊ぶ地球のお話」、松本春野さんの「絵本と一緒に大人になる」いわさきちひろと松本春野の絵本の世界」が行われた。

ほかに、当地で活躍するたなかみどりさんのオープンニングコンサートや紙芝居実演、ワーク

ショップや読み聞かせなどが企画され、子どもたちを湧かせていた。さらに今回の絵本ワールドでは、修善寺図書館だけでなく、同じく伊豆市立の中伊豆図書館、天城図書館、土肥図書館でも原画展が開催され、広い市内全域で連動するイベントが実現した。



「ぼくは王さま」も登場した  
絵本・児童書の販売会場

2025年度の絵本ワールド事業は、北は北海道音更町から南は沖縄県豊見城市まで、文字通り全国で7件の開催という活況だった。次年度に向けてすでに多くの企画が進行中で、子どもの読書推進会議での存在感を増している。

■「上野の森親子ブックフェスタ」開催へ

### 今年も多数の出版社が参加 ゴールデンウィークは上野へ!

5月4日(祝)〜5日(祝)、東京都台東区の上野恩賜公園で、今年も「上野の森親子ブックフェスタ2026」(主催)子どもの読書推進会議/日本児童図書出版協会/一般財団法人出版文化産業振興財団)が開催される。

昨年同様、5月の晴天のもと、約34000人が来場。書籍の売り上げも約4150万円に上り、来場者売上額とも一昨年を大きく上

回った。コロナ禍後2022年のリアル開催再開以来盛況が続いており、ゴールデンウィークの上野公園を彩るビッグイベントとして定着している。

催事のメインである謝恩価格での児童書販売「子どもブックフェスティバル」には、すでに昨年以上回る80社を超える出展を予定、ブースでは各版元がみずから厳選したラインナップを販売する。



「子どもブックフェスティバル」  
(写真は2025年)

■日書連「春の読者還元祭」開催

### 春の恒例行事! 本屋さんで図書カードを当てよう!

日本書店商業組合連合会(日書連)は、4月20日(月)から5月11日(月)まで、「春の読者還元祭2026」を全国の実施書店で開催する。

この「読者還元祭」は、春と秋の「子どもの読書週間」「読書週間」の恒例行事として実施されており、今年6年目となる。

実施書店では、書籍・雑誌を購入した読者に、キャンペーンサイ

トのQRコードなど、応募方法を示したしおりを進呈する。読者はキャンペーンサイトにアクセスし、必要事項を記載して応募。抽選で図書カードネットギフトが当たる(5000円分200本、3000円分200本、1000円分1400本、総額300万円)。

抽選は、キャンペーン終了後に実施する。同じ等級の重複当選はなし。当選者には、6月下旬以降

出展する出版社による作家のサイン会、読者交流イベント、協賛社によるデモンストラクション、講談社の「全国訪問おはなし隊in上野公園」など、多くのコンテンツが実施される。



【左】実施書店に掲出されるポスター  
【右】読者に進呈されるしおり(見本)

にメールで図書カードネットギフトが送られる。

「春の読者還元祭」の詳細は日書連ホームページを参照。実施書店名も告知中。

●日書連ホームページ  
<https://www.n-shoten.jp/>

■日本図書館協会がオンライン講座を配信

### 働く人も、支える人も、使う人も 図書館の基礎について学ぶ

公益社団法人 日本図書館協会は、5月31日(日)まで、「図書館基礎講座オンライン2025」を配信している。

この講座では、図書館で働くすべての人を対象に、図書館の理念や社会的役割など、公共図書館の現場に役立つ基礎知識を学ぶ。

内容は、①「図書館の基礎」図書館の理念的基盤や法体系における図書館の位置づけ、図書館員の

倫理綱領、地域資料について

②「現代の図書館の動向」図書館を取りまく社会や政策の変化を踏まえ、現在の図書館が果たす役割や課題について

③「出版流通と資料選択」図書館で働くうえで重要な出版界のしくみや現状を把握し、読者に本が届くまで

④「図書館の自由」図書館が保証すべき自由について、日本やアメリカの事例を参照しながら実践を学ぶ。

■「2026 えほん50」第31回日本絵本賞最終候補絵本」発表

### ぜひ読んでほしい新刊絵本50冊と さらに厳選した30冊を紹介

公益社団法人 全国学校図書館協議会(全国SLA)は、推薦絵本リスト「2026 えほん50—全国SLA絵本委員会選定(協力)子どもの読書推進会議)」を発表した。

このリストは、2019年から毎年選定、発表されている。今回は2025年の1月から12月までに刊行された絵本より、全国SLA絵本委員会が「ぜひ子どもたち

講座の視聴は、日本図書館協会のホームページより可能。受講料無料、予約申込不要なので、インターネット環境があれば、期間内いつでも受講できる。

講座の対象は、すべての図書館で働く人、図書館について学び直したい人、図書館に関心のある人。ボランティアにとつては、地域の図書館のあり方を考えるきっかけにもなる。

●日本図書館協会 図書館基礎講座詳細  
<https://www.jla.or.jp/committees/hiseiki/iskouza-2/>

全国SLAでは、この「2026 えほん50」より、1年間を代表する特に優れた絵本として、「第31回日本絵本賞最終候補絵本」30点をノミネート。こちらのリストも公開している。

●全国SLAホームページ  
「2026 えほん50 紹介ページ」  
<https://www.j-sla.or.jp/recommend/ehon50/>

●第31回日本絵本賞最終候補絵本のページ  
<https://www.j-sla.or.jp/awards/ehon/31th-ehonshou-final.html>

■「第37回読書感想画中央コンクール」

### 57万点以上の応募! 全国から秀作・力作が集まる

2月27日(金)、東京都千代田区の如水会館で「第37回読書感想画中央コンクール表彰式」(主催)公益社団法人全国学校図書館協議会/毎日新聞社ほか)が開催された。

今年、全国の小学校・中学校・高等学校から57万5435点の応募があり、文部科学大臣賞をはじめ入賞作32点が表彰された。受賞者代表のことは『和ろうそくは、つなぐ』(アリス館)が対象図書、小学校高学年の部文部科学大臣賞の池田蒼征さん(広島市安田学園安田小学校5

年)。1年生のときから、コンクールに応募している池田さんは、「1本のろうそくが、さまざまな材料でできているつながりを描いた。著者の大西暢夫さんの本を、続けて読んでいます」と述べた。

作図感想の朗読は、中学校の部文部科学大臣賞の櫻井誠太朗さん(徳島県名西郡石井町石井中学校2年)。「対象図書は」題名にインパクトを受けて選んだ。主人公の『やなやつ』があふれるシーンが印象的。そのときの主人公の頭の中を描いた」と読みあげた。



文部科学大臣賞受賞者の表彰  
(写真提供: 毎日新聞社)

櫻井さんの対象図書『やなやつ改造計画』(あすなろ書房)の著者、吉野万理子さんは「櫻井さんの絵で、自分も気づかなかった主人公の気持ちに気づいた。感想画は本を読み、考え、先生と対話して完成させ、多くの人に見てもらおう。みなさんの人と人をつなぐ力が、未来の明るい光になる」と語った。表彰式後のパーティーでは、会場内に展示された入賞作を前に、入賞者が対象図書の作者と語りあう姿も多く見られた。

■伊藤忠記念財団 子ども文庫助成事業 贈呈式

### 子どもの未来を支える活動に あたたかいエールを送る

公益財団法人 伊藤忠記念財団は2月26日(木)、東京都港区の伊藤忠商事東京本社ビルにて「2025年度子ども文庫助成事業 贈呈式」を開催した。

同財団の鈴木善久理事長は、「子どもの読書推進は、子どもたちの未来を静かに、確実に支える尊い活動。日々重ねてこられたみなさんと、これからもともに歩んでいきたい」と述べた。

選考委員長の杉山さく子さんは、地域フリースペースを使った文庫の増加や、コロナ以降、活動が停滞していた病院での読書ボラ



功労賞受賞の青木さく子さん  
(さくらんぼ文庫・埼玉県)

ンティアの再開が目立ったことなどを紹介。「子どもと本の活動は、平和の方向を向いている。これからもみなさんと、この平和活動を続けていきたい」と述べた。

子どもの本購入費助成受領の子育て応援グループ415のわ(香川県)の眞鍋陽子さんは、「図書館がない地域に子育ての場をと、本の寄贈を受けてスタートした。現在、OBの中高生も協力。本がある環境と人とのつながりが、子どもの成長を支えてくれていま

す」と語った。病院・施設子ども読書活動助成受領の、京大病院小児科ボランティアグループにこ(トマト(京都府))の高谷恵美さんは、「昨年30周年を迎えました。コロナ以降、本の扱いが厳しくなつたので、電子図書の利用も考えています」と、病院の事情も紹介した。特別支援学校図書支援

助成受領の秋田県立栗田支援学校(秋田県)の神部守校長は、「生徒たちに、長期休みで読んだ本を、わたしの推しブック』として紹介してもらっている。今回は管理職の



功労賞受賞の一柳より子さん  
(篠栗おはなし会・福岡県)

推しブックも実施した」と述べた。

功労賞受賞のさくらんぼ文庫(埼玉県)の青木さく子さんは、「多くの人のおかげで、どこでもおはなし会やワークショップ、FMくまがやで地域の昔話紹介と、いろいろやってきた」と、篠栗おはなし会(福岡県)の一柳より子さんは、「小学校での読み聞かせもしている。6年生の最後の会で『耳をすませて聞く力を育ててくださり、ありがとう』と言っていた

いた」と語った。祝辞は、日本図書館協会 児童青少年委員会委員長の島弘さん。「コロナ期には、ドライブスルー貸出など、みなさんの柔軟性に驚かされた。図書館も協力して、子どもたちのよりよい読書環境を作ってほしい」と述べた。

祝辞は、日本図書館協会 児童青少年委員会委員長の島弘さん。「コロナ期には、ドライブスルー貸出など、みなさんの柔軟性に驚かされた。図書館も協力して、子どもたちのよりよい読書環境を作ってほしい」と述べた。

■伊藤忠記念財団 子ども文庫研究交流会

### 文庫の実践報告を通して 情報交換と交流を深める機会に

2月15日(日)、東京都千代田区の出版クラブホールにて、「子ども文庫研究交流会in東京(主催)公益財団法人 伊藤忠記念財団」が開催された。

講演会「子どもの本から広がる世界―翻訳と文庫活動を通して―」の講師は、翻訳家で「パオバブ文庫」(長野県大桑村)のさくまゆみこさん。これまでに約250点の子どもの本を訳してきたさくまさんは、「AIやゲームで遊ぶ子が増えている。自分の頭で考えた

り感じること、子どもの本の役割がこれまで以上に大切になっている」と、「子どもが翻訳作品を読むことは、違う価値観、違う文化を持つ人たちがいることを知り、国際理解・平和につながる。一緒に生きようと思える本を、子どもたちに届けたい」などと語った。

事例発表①は、はとさん文庫(東京都西東京市)の服部雅子さん。20年の子育て期間中におはなし、児童書、図書館の勉強を続け、2004年に文庫を開設。わらべうたを大切にしており、子どもた

ちから「はとさん」と親しまれているなど、文庫の様子を紹介した。事例発表②は、グリーンヒル寺田子ども文庫(東京都八王子市)の大野良恵さん。1974年に団地集会所に文庫を開設。その後、小学校内の地域交流スペースに移転して22年間、地域と学校を繋ぐ象徴となっていたが、小学校の方針転換で今年2月での退去を要請されている。現在、移転先を検討中で、「文庫の『場所』が変わっても『心』は残る」と述べた。

講師を交えた交流会では、参加者たちがそれぞれの実践や悩みなどを交換、共有した。

また、5月31日(日)に長野県塩尻市で「子ども文庫研究交流会」の第2回目が予定されている。詳細は決まり次第、同財団ホームページ、SNSに掲載される。

●伊藤忠記念財団ホームページ

<https://www.itc-zaidan.or.jp/>



伊藤忠記念財団 SNS  
【上】 Instagram  
【下】 Facebook



■JBBY賞贈賞式

41年ぶりのIBBY国際大会！  
2027年に東京で開催が決定

2月23日(祝)、東京都千代田区の出版クラブホールで、「第9回JBBY賞 贈賞式(主催) 一般社団法人 日本国際児童図書評議会(「JBBY」)が開催された。

この賞は、JBBYが国際児童図書評議会(IBBY)の国際アンデルセン賞ほか、各種国際賞に推薦した作品の作家・画家・翻訳家・出版社に贈られる。

作家の部門受賞の岩瀬成子さん



受賞者あいさつをする岩瀬成子さん

は、50年前のデビュー時の思い出を語り、「当時と比べ、世の中が暗くなっている。でも、もう少しましな作品が書けるよう、がんばる」と述べた。

文学作品の部門受賞の安東みきえさんは、「甲府盆地で育ち、悪いことをすると周りの山に怒られるように思った。でも、なだらかでおだやかな富士山は絶対に怒らなかつた。JBBYは私にとって

富士山です」と語った。

また、宇野和美会長はあいさつで、2027年7月に東京でIBBYアジア・パシフィック大会、本でつながらとりの国々の開催決定を発表した。IBBYの国際大会の日本開催は、1986年の世界大会以来41年ぶりとなる。

■グローバルサウスと絵本とサイエンスの会

定期的なイベントと情報発信で  
絵本で世界と科学をつなげる

一般社団法人グローバルサウスと絵本とサイエンスの会(GS-Ehon)は、2月28日(土)に日経ホール(東京都千代田区)で、第3回茶話会「海と絵本とわたし」道田豊先生を囲んで」をオンライン併用で開催した。

道田さんは、海洋とその変化がもたらす影響などを歴史的な側面も含め紹介。茶話会トークパートナーの絵本出版社、図書館、管理

栄養士と、各自の立場から「海への関りについて語りあった。

GS-Ehonは、読書推進読運動協議会理事でもある森西さんが理事長を務め、「絵本の力で南北地球に、科学する目を宇宙と地球に」を目的としている。ニュースレターの配信や、定期的な茶話会の開催で、国内へ情報を発信しているほか、海外へ日本の絵本を届けるプロジェクトも進めている。最



茶話会「海と絵本とわたし」チラシ

初の対象国に貿易などで日本とも関係が深く、カカオ生産における子どもたちの労働問題も注目されるガーナが予定されている。

茶話会の詳細と、当会 野間省伸会長のインタビューが掲載されたニュースレター8号は、GS-Ehon サイトで閲覧できる。

●GS-Ehon サイト

<https://gs-ehon.org/web/>

■別冊「2025・第79回読書週間行事報告」

説明を割愛した行事についての  
補足

本紙別冊「第79回 読書週間 全国行事報告」では、全国の読書推進運動協議会より、多くの行事報告をいただきました。紙面の都合上、説明を割愛した行事について、ご紹介します。

○図書リサイクル市／古本市

図書館の除籍資料や利用者の寄贈図書を無料で配布する。少額の料金を設定し、収益を関係機関などへ寄付する場合もある。

○一日司書／図書館の仕事体験

カウンター業務や図書の配架などを体験する。図書館ツアーと一緒に開催されることもある。

○図書館ツアー

図書館内を案内。閉架書庫や事務室など、普段は立ち入れない場所を公開することも多い。

○本の木

館内に木のイラストを掲示。利用者や葉や花などの形をした用紙に推薦図書や感想を書いて貼る。魚のイラストとうろこ形の用紙などバリエーションも豊富。

○本の福袋／ラッキーブック

テーマごとに図書を2〜3冊

セットし、タイトルが見えないようにラッピングして貸出。テーマや中身のヒントは明示される。

○スタンプラリー／クイズラリー

図書館来館や図書資料の貸出、または出題されたクイズへの解答でスタンプを獲得。既定数を集めると、雑誌の付録やしおり、図書館グッズなどを進呈する。自治体内の図書館をめぐる場合もある。

○ぬいぐるみのお泊り会

子どもがぬいぐるみと一緒におはなし会などに参加、その後、ぬいぐるみのみ図書館に泊まる。お迎え時には、「ぬいぐるみが選んだ」推薦図書を子どもに紹介したり、夜の図書館でのぬいぐるみの様子をアルバムにして進呈する。

○図書館ピンコ

来館時に、図書分類番号やジャンルなどを入れたピンゴカードを配布。カードにある図書を借りてピンゴを達成すると景品進呈。

○ガチャ／ガチャポンなど

図書貸出、クイズ解答などでガチャを回し、出てきた図書を借りる。景品が当たる場合もある。

### 優良読書グループの歩み (4)

2025年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。

(順不同)

#### 十二支会

代表者 伊東 宣子

岩手県北上市

〈推薦〉  
岩手県読書推進運動協議会

私たち十二支会は、1988年に北上市立図書館主催の「読み聞かせ会」の講座受講生によって組織されたのがはじまりです。

活動目標は、読み聞かせを通して本を読む喜びや楽しさを伝え、本を好きになる環境づくりです。

はじめは6人で、市立図書館3か所、毎月1回のおはなし会でしたが、現在は中央図書館のみで活動しています。37年継続しています。

会員は現在12人です。多くは高齢ですが、ひとりフリーピン出身の人がおり、図書館で簡単な英語と日本語で絵本を読んでいます。集まる子どもたちの年齢にもよりますが、なかなか興味を持つてくれない人もいます。参加型にすれば時間

的に問題があり、今後の課題です。

地区の自治協議会から、読書習慣のきっかけ作りなどで子どもたちを育てたいと、おはなし会の依頼があり、保育園、幼稚園で2017年から絵本・紙芝居を読んでいます。大型絵本は人気があります。「また来てね!」と言われると、とてもうれしいですし、元気をたくさんもらっています。

学童保育所では、1・2年生対象に絵本・紙芝居を読んでいます。



子どもたちが絵本に見入る姿がうれしい

短時間ですが、子どもたちは食いつくように、見て聞いてくれます。

地域の高齢者の集まりでの読み聞かせでは、地域の伝説や昔話など読んでいます。再認識や発見があり、とても喜んでいただいているとともに、私たちの勉強にもなっています。地域によって反応が違いますが、顔の表情や拍手で感じとっています。

各目的の事情などで参加できない会員がいても、チームワークでカバーできる会です。

今後、新規会員の加入とさらなる技術向上のため、講演会や研修会へ積極的に参加していきたいと思っております。

#### 太田市美術館・図書館「ウーフ」

代表者 中野きよ枝

群馬県太田市

〈推薦〉  
群馬県読書推進運動協議会

きなウーフにちなみ、読み聞かせボランティア「ウーフ」と名づけました。

読み聞かせは月2回(第1・第3日曜日)、おもに美術館・図書館2階の世界の絵本コーナー内で行っているほか、スターバックスコーヒー(イオンモール太田)で月1回(第4月曜日)、行っています。おもな内容は、読み聞かせを中心に、手遊び、歌遊び、わらべ歌などです。

読み聞かせの時間にはたくさんの方々が参加してくださり、赤ちゃん、子どもたち、大人の反応を見ていると、自然とこやかになれます。そして、これからはがんばりたいと思うことができそうです。子どもの喜んだ笑顔がなにより励みであり、やつてよかったと感じる瞬間です。

絵本を選ぶときには、季節や年齢対象を考えて選ぶことを基本としています。たくさんさんの絵本の中から選ぶことは楽しみでもあり、悩んだり、苦労したりすることでもあります。しかし、みなさんが楽しんでいる様子を目にするとうれしく思い、特に赤ちゃんや子どもたちの笑顔には心が癒やされ、毎回勇気ももらっています。

コロナ禍を経験し、一時は読み



季節や参加者の年齢を考慮しプログラムを用意

聞かせができないという、つらいこともありましたが、やつと元の生活に戻りつつあります。今後とも今までもおりの生活を送ることができ、メンバーでの活動も継続していけたらと思います。仕事を持ち、子育て中のメンバーもいるので、家庭を優先することを大切に認めて、フォローしあっています。そして、無理なく楽しくボランティアを続けていけたらと思います。

優良読書グループ表彰を受け、長年の活動を通して、これまでに携わってくださった多くの方々に感謝するとともに、美術館・図書館と一緒に私たちが発展しながら、活動を継続していけたら幸

いです。

今後また皆さんの絵本に囲まれ、また、子どもたちにとつて特別な時間になるよう、つねに大切に絵本を読み続けたいと思つていきます。

### 絵本案内人 ボランティア

代表者 松田 幸子

岐阜県多治見市

〈推薦〉  
岐阜県読書推進運動協議会

そもそのスタートは、50年以上前、多治見市図書館の依頼を受けて絵本の読み聞かせをボランティアで始めたことからです。その活動が引き継がれ、約20年前に「絵本案内人ボランティア」としてスタートしました。本好きの方々がメンバーに加わり、多治見市図書館でさまざまな活動を行っています。

スタッフは現在8名です。地域の家庭文庫主宰、地元公民館での読み聞かせ実践者、保育経験者など経歴は多様で、定期的に絵本やわらべ歌などの勉強会を開き、日々研鑽に励んでいます。本によりなほしみをもつた子どもたちが増えてほしいという思いで活動を工

夫しています。

市の4か月健診時に、乳幼児親子を対象とした「ブックスタート」事業で読み聞かせを行つていきます。毎月2回講座を開き、毎回40名近くの乳幼児親子に読み聞かせや絵本の紹介をしています。すばらしい本に出会つてほしいという願いから、『この本おもしろいよ』という50冊近くの本を紹介した冊子を作り、配布しています。また、ブックスタートのフォローアップ事業「小さなおともだちのためのお話の会」を毎月2回企画・運営

しています。未就園児を対象に本の読み聞かせにかぎらず、手遊びやわらべ歌なども入れ、参加した子どもたちが本の世界をイメージしたり、体験したりしやすいような活動を工夫しています。さらに、絵本翻訳家や絵本作家、写真家などを招いて講演会やワークショップを実施しています。

これからも楽しいことを見つけて、自分たちも楽しみながらゆくり活動をしていきたいと思います。長く活動を続けているため、かつて読み聞かせに来ていた子が成長し、自分が母親となつて子どもを連れてきてくれたり、町ではつたり会つたときに声をかけてくれたり、お子さんの成長を近

くで一緒に見守れ、活動の中での子どもたちやお母さんたちの笑顔がなによりエネルギーとなつていきます。また、多治見市図書館の強力なバックアップがあり、活動を継続できています。図書館事業への協力を行うことで、持ちつ持たれつの関係がよいと考えています。今後も、子どもたちの絵本との出会いを大切に、子どもたちが笑顔になれるよう進めていきたいと考えています。

### ひまわりの会

代表者 山崎あさみ

熊本県天草市

〈推薦〉  
熊本県読書推進運動協議会

読み聞かせの朝、ちよつとドキドキしながら教室に顔をのぞかせると子どもたちが「あー来らした来らした!」とあわてて席に着いたり姿勢を正したり。日直さんの号令で「よろしくお願ひしまーす!」という元気なおあいさつと同時に、キラキラとした眼差しをこちらに向けてくれます。今日の本はなんだろう? 早く表紙が見たい!と言わんばかりの期待にあふれた表情に、読み手の大人も最

高潮にワクワクします。

今からさかのぼること23年前の2002年、当時、栖本小学校に赴任中だったひとりの先生の呼びかけに保護者が立ちあがり、「読み聞かせボランティアひまわりの会」として発足しました。週に1回という頻度、読み手が1年間同じクラスを担当するというやり方、年に1回私たちが思う存分に伝えたいこと、楽しませたいことを発表する「おはなし会」、いずれも驚くことに23年間、変わっていません。

週に1回×23年間の間に、子育てや人生の合間をこの活動に関わり注いでくださったたくさんのお母さんやお父さん、地域の方々がいらつしやいます。そして23年間

の継続は、学校や先生方の理解と協力のたまものでもありません。

生の声で、よいことばで、いろいろな物語やおはなしが子どもたちの心や頭の中に少しでも残り続けてくれれば、なによりうれしく思います。今後も楽しい時間をこどもたちと一緒に重ねていきたいと、つねづね感じていきます。ひいては学力向上や人格形成の一助になればというひまわりの会の変わらない想いと、「本の重要性」という共通認識が、先生方やメンバーが変わつてもこの地で引き継がれているのだと思います。

この活動は子どもたちに与えるものと思つたら大間違い! 実際は大人が子どもたちから学び、楽しい時間を共有させてもらつているのです。予想もしていなかったリアクション、それぞれの目のつけどころ、寄せられる感想に笑みがこぼれ「キュン」となつたり。思うようにいかなかったときは、選書やしくじりの内容をメンバーに相談したりあれこれ試してみたり。ほんとうに貴重な体験です。

この活動が根をはり、子どもたちの明るくたくましくかわいい笑顔の花が咲き続けるようお願いながら、これからも活動していきたいと思ひます。



23年間、変わらず、地道におはなし会を重ねて

# 2026・第80回読書週間

## ポスターイラスト募集

### 標語は「静かだけど、冒険中。」



2022年 たしまさとみさん



2024年 熊 梨江さん

秋の「読書週間」のシンボル、ポスターのイラストを募集します。

#### ○賞

- ・大賞(1名)……賞状と賞金10万円
- ・優秀賞(3名)……賞状と賞金1万円
- ・入選(10名前後)……記念品(図書カード)

#### ○応募要項

- ①標語「静かだけど、冒険中」をイメージした未発表の創作原画
- \*「読書週間」などの文字情報は作品に入れないこと
- ②サイズB4判、タテ
- ③用紙・画材自由
- ④CG作品はトンボを含むB3で作成、B4でプリントアウトする
- ⑤カラー、モノクロとも可
- ⑥立体、半立体、写真、コピー、生成AIを利用した作品は不可



2023年 鈴木初奈さん



2025年 天野美月さん

- ⑦応募資格 高校生以上。合作は可だが、応募はひとり1点
- ⑧ハガキ大の用紙に以下を明記し、作品の裏面に添付のこと
- 氏名、郵便番号、住所、電話番号、年齢、職業、メールアドレス(任意)
- ⑨応募締切 6月10日(必着)
- ⑩送り先・問い合わせ先

〒101-0051 東京都千代田区  
 神田神保町1-32 出版クラブ  
 ビル6階  
 公益社団法人 読書推進運動協議会  
 「読書週間ポスターイラスト」係  
 TEL 03-5244-5270

⑪発表 8月上旬、入賞者に通知  
 ⑫入賞作の二次使用権は公益社団法人 読書推進運動協議会に帰属  
 ⑬作品は返却しません。返却希望者はその旨を明記し、着払い伝票(必要事項記入、ゆうパックに限る)を同封のこと

### 事務局報告(3月)

- ☆4日 2025年度決算について打ちあわせ(副部長 公認会計事務所 来所)
- ☆6日 機関紙「読書推進運動」700号入稿
- ☆6日 2026年ごとの読書週間ポスター 出来
- ☆9日 機関紙「読書推進運動」700号 責了
- ☆13日 機関紙「読書推進運動」700号 出来
- ☆13日 2026年度事業計画・予算等 内閣府に提出
- ☆16日 伊藤忠記念財団「子ども文庫助成事業」募要項を関係者へ発送
- ☆17日 全国学校図書館協議会 来所、事業後援等うちあわせ
- ☆18日 城西国際大学 来所、事業後援等うちあわせ
- ☆17日 2026年ごとの読書週間についてパブリシティを電通に依頼
- ☆24日 機関紙「読書推進運動」701号別冊 校正を講談社校止部より受け取り
- ☆24日 日本児童出版美術家連盟(童美連)懇親会に出席(スクワール 麹町)
- ☆28日 絵本ワールドinしずおか開催 立ちあい(伊豆市)



読書推進運動協議会 X (旧 Twitter)

### 編集部&事務局のひとこと

●初めて香港に行ったのは、雑誌の編集部に在籍していた20代後半のころで、まだ返還前だった。古い話でバブルの時代、スポンサーがついた企画ものの取材、初の海外出張だったと思う。コーディネーターさんが案内してくれた食事が、びつくりするほどおいしくて安くて、その後プライベートでも取材でも香港の旅を重ねるようになった。

●香港の魅力は多様性にあると思っ  
 ている。旺角や上環のような下町エリアには庶民的な食堂や市場などがびつくりならび、大声の広東語がとびかう。アジアの「喧騒と雑然」を感じることができる。いつぼう中環などの中心部では英国風のすこしお洒落な香港がある。両面が絶妙なバランスで同居しており、スターフェリーやトラムなどのアイコンックな乗物で行き来すると、こちらの気分まで開放的にハイになってくる。

●騒乱とコロナの時期があった。香港はすっかり変わってしまったという人がいる。この2月、コロナ後2度目の短い旅をした。たしかにだいたいぶきれいになったとは思っ。むきになつて(?)あちこちの街を歩いてみる。エリアごとの濃度が懐かしい風情を全身で感じる。だいたいようぶ、多様性は健在、香港の底力だ。

●ホテルの部屋で手元の電子書籍ライブラリーを開いてみる。古典から邱永漢「香港」。2010年代作品から早瀬耕「未必のマークベス」、香港発の大河警察小説「陳浩基」13・67。小説の舞台としても、なんと魅力的な街ではある。(佐々木)